

事業コード	H21-農-継-7		区 分	国庫補助 県単独
事業名	林道事業		部局課室名	農林水産部 水と緑の森づくり課
事業種別	流域育成林整備事業		班 名	治山・林道班 (tel) 018-860-1945
路線名等	金山線		担当課長名	池田光晴
箇所名	横手市山内平野沢字石木田落合		担当者名	加賀貞寿
総合計画との関連	政策コード	08	政 策 名	自給力、需要創造力を高めよう農林水産業
	施策コード	05	施 策 名	森林整備から木材加工・販売までの一貫した体制の構築
	指標コード	02	施策目標(指標)名	林道・基幹作業道密度(累計)

1. 事業の概要

事業期間	H02 ~ H24 (23年)		総事業費	17.0億円	国庫補助率	1/2
事業規模	森林管理道 幅員4.0m、延長12,300m、利用区域面積748ha					
事業の立案に至る背景	旧山内村北部に位置する平野沢と三又地区を結び、森林の適切な維持管理と林業生産活動を促進するため林道を開設する。					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備実施のための基盤整備 ・森林施業の集約化や機械化による効率的な森林施業の実施 ・林業生産コストの低減 					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,700,000	1,700,000	0	
	経費 内訳	工事費	1,700,000	1,700,000	0	
		用補費	0	0	0	
		その他	0	0	0	
	財源 内訳	国庫補助	850,000	850,000	0	
		県 債	383,000	383,000	0	
		その他	425,000	425,000	0	
		一般財源	42,000	42,000	0	
	事業内容		幅員4.0m 延長14,265m	幅員4.0m 延長12,300m		
事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・施工済延長9,090m 全体計画延長の74% ・実施事業費1,144,040千円 全体事業費の 67% * H 2 0 年度末現在 					
事業推進上の課題	・一層のコストの縮減を図り、進捗状況の向上が必要					
関連する計画等	・「雄物川地域森林計画」に林道整備路線として、当該路線が計画されている					
情勢の変化及び長期継続の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、地球温暖化防止対策が求められており、間伐等森林整備のための基盤整備は急務である。 また、当該林道の整備は、地域林業、木材産業の活性化を図る上で非常に重要である。 					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	林道・基幹作業道密度(累計)				
	指 標 式	林道・基幹作業道延長 / 民有林面積				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目 標 値 a	6.5 m/ha		データ等の出典	林道事業実績報告	
	実 績 値 b	6.4 m/ha				
達成率 b / a	98.5 %		把握の時期	平成21年 4 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	無し
	指摘事項への対応
	無し

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	あきた21総合計画での林道・基幹作業道(累計)では効果達成率が98.5%となっている。 計画路線の利用区域の森林は人工林率48%であり、雄物川流域の人工林率51%にわずかに満たないが、適正な森林整備が必要となっている。 京都議定書の発効に伴い、温暖化対策に貢献する森林整備の重要性が増大している。	11点
緊 急 性	利用区域の4齢級以上の蓄積が100%となっており、資源の熟成度が高い。 森林整備事業と連携しており、引き続き間伐を推進していく必要がある。	15点
有 効 性	盛り土下部に、土砂の押さえを図るため、間伐材を利用した、木柵工を設置するなどにより、有効活用を図り、森林資源の循環利用に貢献できる。 間伐等森林整備予定量(H19~H21)56.5haに対して、実績が46.5ha(82%)となっている。	12点
効 率 性	事業の費用便益比は1.50である。 ・総費用2,317,978千円 ・総便益3,472,410千円 掘削残土の現場内処理により、運搬費用の減を行い、更にコストの縮減を図る。	26点
熟 度	施設の管理体制及び維持管理に十分配慮されている。 全体計画や詳細設計及び工事実施において、環境保全への配慮がなされている。	21点
判 定	ランク () 間伐対象森林の蓄積(4~9齢級)が人工林の61%に達しており、これらの森林整備にあたり、林道の開設が効果的であることから、引き続き事業を実施すべきである。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度は高く、事業は継続して実施すべきと考える。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

森林整備の促進と森林施業の効率化を図る基盤として、重要な役割を担っており、計画どおりの完成を目指して事業を実施する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 林道事業

事業コード(H21-農-継-7)
箇所名 (横手市山内平野沢字石木田落合)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	上位計画への貢献度				
	あきた21総合計画	事業の効果達成率が100%以上(事業評価) 事業の効果達成率が80%~100%未満(事業評価) 事業の効果達成率が80%未満(事業評価)	5 3 1	3	
	資源の成熟度				
	人工林率	人工林率:流域平均値以上 人工林率:流域平均値以下	5 3	3	
	社会情勢における必要性				
	社会経済情勢変化による需要変化	需要は増大している 需要に特に変化はない 需要は低下している	5 3 1	5	
	計		15	11	
緊急性	森林整備状況				
	要整備森林の占有度	利用区域の4齢級以上の蓄積が70%以上 利用区域の4齢級以上の蓄積が70%未満	10 5	10	
	他事業との関連				
	他事業との連携	他事業と連携しており、緊急性が高い 他事業と連携が無く、緊急性も低い	5 3	5	
	計		15	15	
有効性	開設による有効性				
	間伐材等の活用	活用可能な全てに活用 一部使用 使用なし、または、検討中	5 3 1	5	
	森林整備計画	森林整備計画に対する達成率100%以上 森林整備計画に対する達成率80%~100%未満 森林整備計画に対する達成率50%~80%未満 森林整備計画に対する達成率50%未満	10 7 5 1	7	
	計		15	12	
	効率性				
事業の投資効果					
費用対効果指数(B/C)	B/C=1.45以上 B/C=1.0以上1.45未満 B/C=1.0未満	10 5 0	10		
コスト削減の検討					
コスト削減計画	実施している 今後実施する予定で検討中 実施していない	10 5 0	10		
計画の効率性					
設定工期	設定工期内に余裕を持って完成が見込まれる(80%) 設定工期に完成が見込まれる 設定工期を更に延長する必要がある	5 3 1	1		
事業費の増減	当初計画事業費以内 30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 1	5		
	計		30	26	
熟度	地元との合意形成の状況				
	事業関係者、関係機関との協議・調整	基本事項が確認済 協議中であるが、特段の問題はない 今後協議する予定	5 3 1	5	
	施設の管理体制	維持管理費を毎年予算化し、適切に管理している 維持管理費を必要な年のみ予算化し、適切に管理している 維持管理費を予算化していない	5 3 0	5	
	計画の進捗状況				
	事業の進捗状況	計画より進捗している:進捗率100%以上 おおむね計画どおり進捗している:80%~100%未満 計画より遅れている:80%未満	5 3 1	1	
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 課題はあるが、当面進捗に影響がない 課題解決が困難である	5 3 0	5	
	環境との調和への配慮状況				
環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮について検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	計		25	21	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		